随筆リレー

『最近の夏の暑さ』

千代田支部
高橋俊之

私は造園業を営んでいます。管理（個人の庭木剪定・工場緑地帯・街路樹・公園・河川除草）又、工事（植栽・伐採）と殆どが屋外での作業が中心となる職業です。

しかし、最近の夏は暑い。本当に暑い。（掲載される頃は秋ですが）最近の暑さは異常で、熱中症で倒れる人もたくさんいますよね。そして今では暑いときの運動、労働などの熱中症対策に水分補給（塩分等も）がとても大切であることは、広く浸透しています。しかし昔は、何かスポーツをされていた人でしたら、練習中に水分を摂ることを禁止されていた人も多かったんじゃないでしょうか。30年ほど前なんかは、そうでしたよね?私もその1人です。それでも今のように熱中症で倒れるなんてことは殆どなかったと思います。そもそも熱中症という言葉なんて無かったと思います。やはり30年前よりも今のほうが暑くなっているんでしょうね。昔なら30℃超えれば大騒ぎ、今は40℃になるくらいですから。40℃と言ったら、人の体温を上回る温度。運動・作業などしていたら、たちまち体力は奪われ、呼吸は苦しく、暑い熱気でのどを焼かれ、声はかすみ、立っているのが辛くなるほどです。

弊社としても暑さ対策として、まずは水分や塩分をこまめにとり、たくさん汗をかいた時はスポーツドリンクなどを飲んでいます。また、経口補水液であれば、手軽に水分と電解質を補給することが可能です。さらに、塩分を摂りたい時は塩飴等でおぎなっています。作業中でも素早く取り出して補給できるため重宝しています。

作業員は安全のために長袖・長ズボン・ヘルメットを着用しなければならず、どうしても体温が上がってしまいがちです。そこで冷却グッズ。ご存じの方も多いと思いますけど、冷却タオル、水に濡らすことで冷たさが持続する特殊な繊維で作られており、作業中の首元をひんやりとさせてくれます。また両脇腹にファンの付いた空調服、これが相当いいです。ちょっと高価ですが、命には替えられません。それでもたまには、暑さで体調を崩してしまう方もいます。「いや～、今年の夏は暑いですね」なんて最近は毎年言っているような・・。

いずれにしても熱中症には十分注意して頑張りましょう。

次回は、板倉支部の茂呂英樹さんにリレーいたします。

『なぜ豪雨災害が起きるのか』

明和支部
小松原　雅司

ここ数年、豪雨の災害が続いています。小さな川（中小河川）の氾濫だけでなく、鬼怒川、球磨川、最上川など、大きな一級河川が氾濫し多大な被害が広がっています。丘陵・山地では、斜面を駆け下る土石流によって、多くの人命が失われました。

この傾向は、おそらく一過性の現象ではありません。地球規模の気候変動によってこれからも続く、あるいは、さらに厳しくなるのではないでしょうか。

近年、水土砂災害が急増した第一の理由は、強い雨が増えていることです。これからの50年、100年、200年にも及ぶ深刻な地球温暖化の表れだという意見もありますが、いずれにしても、ここ10年の動きを見ていると、今までの常識では対応できない豪雨が増えていることは事実です。

この傾向はこれからも続くと考えておくべきであり、私たちは、すでに温暖化豪雨時代の入り口いると判断し、対応していくほかないと思われます。

豪雨を引き起こす水土砂災害は、大小のスケールにかかわらず、「流域」という地形や生態系が引き起こす現象です。「流域」の構造を知ることで、水土砂災害に備える考え方や行動ができるのですが、実際には、私たちが利用する通常の地図にはほとんど反映されていません。

私たちは2021年の今日まで、「流域」について学ぶことなく過ごして来ました。気象庁も国土交通省も、「水土砂災害は河川が引き起こす」とついつい強調してきました。氾濫を引き起こす構造として、確かに河川は水土砂災害の直接的な原因のように見えます。

しかし、その河川に大量の雨水を集める大地の広がりは「流域」であり、雨水や降水による氾濫やさらにそれらを水土砂災害を引き起こす川の流れに変換するのは、「流域」という地形であり生態系です。つまり、氾濫を起こすのは、川ではなく「流域」なのです。流域は「雨の水を水系に集める尾根に囲まれた大地の窪地」です。

頭上の雨だけ見ていても水土砂災害はわかりません。雨が流域で集められ、災害を引き起こすからです。まずは自分がどこの流域のどの位置にいるのか知ることが大事なことではないでしょうか。

次回は、太田支部の今井俊哉さんにリレーいたします。